

《開幕》ネイチャー・センス展：吉岡徳仁、篠田太郎、栗林 隆

日本の自然知覚力を考える 3 人のインスタレーション

2010年7月24日〔土〕 - 11月7日〔日〕 森美術館（六本木ヒルズ森タワー 53階）

「日本を再定義する」を2010年のテーマに据えた森美術館は、2010年7月24日〔土〕から11月7日〔日〕まで、「ネイチャー・センス展：吉岡徳仁、篠田太郎、栗林 隆」を開催します。

「自然」という言葉は、もともとあった「あるがままのさま」を意味する「自然〔じねん〕」に加え、明治期になって西洋から輸入された「NATURE」の訳語としても使われるようになりました。この後者の意味においても、日本の自然観は、いわゆる人工に対する野生や原生林、都市に対する田舎や田園に留まらず、ひろく森羅万象、天地万物などを含む宇宙観とも連続しています。それは、四季の変化が明らかな日本の気候風土、古来のアニミズムや自然崇拝から派生した宗教観とも関連し、独自に育まれて来た自然観といえるでしょう。



吉岡徳仁〈スノー〉2010年（1997年～）

「ネイチャー・センス展」では、現代を生きる日本人の感性や文化的記憶と自然観との関係性を、国際的に活躍する吉岡徳仁、篠田太郎、栗林隆の3名のデザイナー／アーティストのインスタレーションを通して考えます。彼らはいずれも、自然現象や人間と自然の関係性をその表現に採用していますが、その捉え方は、より感覚的、空間的な知覚によるものです。空間を大胆に使ったインスタレーションは、鑑賞者にとっても、アーティストの感性をそのまま体感し、知覚のレベルで共有できる機会となるでしょう。また、展示の最後には、アカデミーヒルズ六本木ライブラリーと協働で、約600冊の本を通して日本の自然観を考える「ネイチャー・ブックラウンジ」を設けました。展示とあわせてご活用いただくことで、自然観についての考察がより深まることと期待しています。

ともすればモダニズムに置き去りにされてきた、いわば超自然的な感性や空間に存在するエネルギーやバイブレーションが、私たちの無意識の領域から本展を通して喚び起こされることで、「日本の再定義」だけでなく東アジアの文化的遺伝子を再考する機会にもしたいと考えています。

主催：森美術館

協賛：株式会社大林組、西川産業株式会社、アワガミファクトリー、株式会社九電工、三建設備工業株式会社、東京ガス株式会社、東京電力株式会社、株式会社ファンケル、三井物産株式会社

協力：シャンパーニュ ニコラ・フィアット、ボンベイ・サファイア、リフォジュール株式会社

企画：片岡真実（森美術館チーフ・キュレーター）

会場：森美術館 東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 53階

開館時間：10:00 - 22:00 | 火 10:00 - 17:00 | (但し 11/2 (火) は 22:00 まで) *いずれも入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休
入館料：一般 1,500円、学生(高校・大学生) 1,000円、子供(4歳-中学生) 500円

*表示料金に消費税込 *本展のチケットで「MAMプロジェクト012:トロラマ」展、展望台 東京シティビューにも入館可(スカイデッキを除く)

*スカイデッキへは別途料金 300円がかかります

お問い合わせ：Tel: 03-5777-8600 (ハローダイヤル) WWW.MORI.ART.MUSEUM

掲載の画像を含む最新のプレス画像は、森美術館ウェブサイトにて申請いただけます。 WWW.MORI.ART.MUSEUM

PRESS RELEASE
プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：渡邊、瀧、品川、岡崎 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum
Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

吉岡徳仁

1967年生まれ。倉俣史朗、三宅一生に師事後、吉岡徳仁デザイン事務所設立。紙の椅子「Honey-pop」や光そのものをデザインした照明「ToFU」など、数々の作品がニューヨーク近代美術館 (MoMA) を初めとする主要美術館で永久所蔵されている。デザイン・マイアミ/デザイナー・オブ・ザ・イヤー 2007 受賞。そのほか、NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」、毎日放送「情熱大陸」への出演や、『Newsweek』誌日本版では「世界が尊敬する日本人 100 人」に選ばれている。www.tokujin.com



吉岡徳仁は、自然現象や自然の原理をデザインの発想に取り込み、そこに自然科学の産物としてのテクノロジーを融合させることに未来のものづくりの可能性を見えました。吉岡の鋭敏な感性によって、工業製品から天然素材まで多様な素材の特性が最大限にひきだされ、光、雪、嵐、風など特定のかたちや色を持たない不定形の現象を再現します。それは、美しいかたちや色を希求する従来のデザイン概念に対して、まったく新しい考え方を提示するものです。

「自然は一度として同じ表情を見ることがない。生きている証だ。偶然、そして必然から生み出される自然の美しさを超えるものは無いと思う」と吉岡はいいます。私たちの日常に存在する光や動きを皮膚感覚で感じ、五感を研ぎ澄まし音や香りを捉えます。その体験から生じる心の高揚を、自身のデザインを通して私たちに伝えようとする吉岡の実験とものづくりは、まさに「感覚のデザイン」ともいえるでしょう。それはまた、古代人が天を仰いで抱いた自然現象への畏敬の念にも通じるものかもしれません。

篠田太郎

1964年生まれ。見事な手作業によるメカニカルな彫刻やインスタレーションで知られている。「庭」や「人間と自然の新しい関係」をテーマに、日常の風景から宇宙まで触手を広げ、独自の感性で時代を感受する。REDCAT (ロサンゼルス)、広島市現代美術館などでの個展、釜山ビエンナーレ (2006)、イスタンブール・ビエンナーレ (2007) など国際展多数。



撮影：御厨慎一郎

篠田太郎の自然観は、いわゆる原生林や野生としての自然に限定されたものではなく、森羅万象や天地万物を対象とし、そのまま空間は宇宙へと広がっていきます。そして、都市化され、近代化の進んだ東京の日常の風景もまた全宇宙の一部としての自然であり、そこに暮らす私たち人間も自然の一部であると考えます。造園を学んだ篠田は、自然や宇宙が凝縮された日本の庭の考え方を継承し、「私たちの生活、社会、文化を含めて自然を完全に抽象化して表現する」ことに興味があるといいます。同時に、私たちの身体の内部にあるマイクロコスモスにも大いなる関心を寄せています。

本展では、このようにマイクロコスモスとマクロコスモスが連続し一体化した、篠田の壮大な世界観が、新作 3 点を通して明らかになっています。これらの作品からは、身体の循環構造が皮膚と外界の境界としての都市景観へ広がり、それがさらに宇宙や天空へと広がっていく同心円状のイメージネーションが観察されます。同時に篠田のフラクタルな宇宙観や世界観、つまり、大自然や宇宙に行かなくともその断片が身近な小さい空間にあるという考え方も、窺い知ることができます。

栗林 隆

1968年、長崎生まれ。1993年武蔵野美術大学、2002年クンストアカデミーデュッセルドルフ (ドイツ) 卒業。ケルン市立美術館 (2003)、シンガポール・エルメス・ギャラリー オーチャードロード (2006) 等で個展のほか、「Arts Towada」十和田市現代美術館：パーマメントコレクション、「Thermocline of Art - New Asian Waves」ZKM カールスルーエ・アート・アンド・メディア・センター (カールスルーエ/ドイツ)、「NEW NATURE」(ニュープリマス/ニュージーランド)、「GARDENS ガーデナーズ-小さな秘密の庭へ」豊田市美術館など国際展多数。



撮影：御厨慎一郎

栗林隆は、「琳派」として知られる俵屋宗達、尾形光琳など、日本の伝統的な絵画に見られる空間意識に関心をもち、12年間のドイツ滞在中にその境界線や領域への関心をインスタレーションや空間構成へ発展させてきました。「日本の絵画空間は、襖絵も掛け軸もそれが展示される空間との関係において成立している」という栗林の作品は、一貫したテーマである「境界線」自体の流動性やその中間領域、あるいは境界線を越えた視点の移動による価値の転換などを暗示しています。作品に頻りに登場するアザラシやペンギンといった水陸両方に住む動物は、境界線を往来する視点の象徴であり、アーティスト自身のポートレートといえるかもしれません。

本展では、森のなかの地面を境界面とする地上と地中、陸と海の境界線から想像される世界観などをテーマにした新作インスタレーションを発表します。いずれも、鑑賞者がその一部となって体感することによって想像が膨らむ作品です。境界線を越え、視点を変えてみることでどのような新しい世界が見えてくるのでしょうか。

PRESS RELEASE プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：渡邊、瀧、品川、岡崎 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum
Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

パブリックプログラム

連続対談「ネイチャー・セッション」 ※日英同時通訳付

日本の自然観を再考する「ネイチャー・センス展」は、出品アーティスト3名の創作に観る雪、光、水、大地といった不定形な自然現象や自然物、自然も人間も一体となった宇宙観や森羅万象に宿る日本古来の宗教観などに端を発しています。彼らはどのような自然観を共有し、自身の作品のなかに活かしているのでしょうか。展覧会のイントロダクションに続く連続対談「ネイチャー・セッション」では、3名の作品とその背景にある自然観の本質に迫ります。

イントロダクション：片岡真実（森美術館チーフ・キュレーター）

- 対談：1** 吉岡徳仁（デザイナー・アーティスト）×新見 隆（武蔵野美術大学芸術文化学科教授）
2 篠田太郎（アーティスト）×重森三明（美術家、重森三玲庭園美術館館長）
3 栗林 隆（アーティスト）×清水 穰（批評家、同志社大学言語文化教育研究センター教授）

日時：2010年8月8日（日） 14：00～18：00

会場：アカデミーヒルズ49、タワーホール（森タワー49階）

定員：250名（要予約） **料金：**一般1,000円、学生・MAMCメンバー500円

主催：森美術館、アカデミーヒルズ

【登壇者プロフィール】

新見 隆（武蔵野美術大学芸術文化学科教授）

慶應義塾大学文学部フランス文学科卒業。インディペンデント・キュレーター。ミュージアム&アート・コンサルタント。イサム・ノグチ庭園美術館学芸顧問。1982年から1999年2月まで、西武美術館・セゾン美術館の学芸員として、展覧会の企画を担当。主な著作に『モダニズムの庭園と建築をめぐる断章』（2000年）。

重森三明（美術家、重森三玲庭園美術館館長）

京都芸術短期大学専攻科修了、パリ国立高等美術学校卒業。1997年に帰国後、CCA北九州のリサーチ・プログラムを修了。2000～2001年、生家、重森三玲旧邸においてアートプロジェクト「SHIMA/ISLANDS」を共同企画。2006年秋、「重森三玲庭園美術館」開館、館長に就任。現代美術、庭園など「場のアート」の研究、設計、創作を行う。

清水 穰（批評家、同志社大学言語文化教育研究センター教授）

『美術手帖』、『ART iT』といった美術雑誌、写真集や画集、美術館カタログに批評文を定期的に寄稿。主な著書に『写真と日々』『日々は写真』（2006年、2009年）。1999年、栗林隆のデュッセルドルフ・アカデミー時代の個展に着目、当時の展評で取り上げている。

レクチャー

「虫の眼から見た自然」 ※日本語のみ

特殊カメラを使い、虫の目線で撮影された昆虫写真で知られる写真家、栗林慧が、普段目にするものがない昆虫の世界を紹介し、彼らの生態や、自身の自然観などを語ります。

講師：栗林 慧（生物生態写真・映像作家）

日時：2010年10月14日（木） 19:00～20:30 **場所：**森美術館展示室内 **定員：**80名（要予約） **料金：**無料（要展覧会チケット）

「近代日本自然観の成立（仮）」 ※日本語のみ

英語のNATUREの訳語として「自然」が定着するまでの、近代日本の自然観成立の経緯を、江戸末期の浮世絵にみる名所ブームと、科学的、地理学的観察による反名所的傾向の流れを対比しつつ、明治期の西洋的な風景画の導入や、ジョン・ラスキンなどの自然論、水彩画運動などとの関連で解説します。

講師：渡辺俊夫（ロンドン芸術大学、チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン教授）

日時：2010年11月3日（水・祝） 14:00～15:30 **場所：**森美術館展示室内 **定員：**80名（要予約） **料金：**無料（要展覧会チケット）

「対談：篠田太郎×デヴィッド・ウィルソン（ジュラシック・テクノロジー博物館館長）（仮）」 ※日本語のみ

ジュラシック・テクノロジー博物館は、芸術と科学の双方の分野を備えつつ、神奇な世界観を持ち、想像や知識への欲求が詰まった特異な収蔵品で知られています。16世紀ドイツで流行した珍しい文物を収集展示する小部屋「驚異の部屋」を、アメリカで蘇らせたウィルソン館長の好奇心や知性を、篠田太郎が探ります。

講師：デヴィッド・ウィルソン（ジュラシック・テクノロジー博物館館長）、篠田太郎（アーティスト）

日時：2010年8月6日（金） 19:00～20:30 **場所：**森美術館展示室内 **定員：**80名（要予約） **料金：**無料（要展覧会チケット）

PRESS RELEASE
プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：渡邊、瀧、品川、岡崎 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum
 Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー



吉岡徳仁
photo: 岡村昌宏



新見隆



篠田太郎



重森三明
写真：重森三玲庭園美術館



栗林 隆
photo: 志津野 雷



清水 穰
photo: タカザワケンジ

ギャラリートーク

キュレーターによるギャラリートーク ※日本語のみ

本展キュレーターが作品について展示室内で語ります。

ガイド：片岡真実（森美術館チーフ・キュレーター）

第1回 2010年7月25日（日） 16:00 - 17:00

第2回 2010年10月1日（金） 19:00 - 20:00

会場：森美術館展示室内（展覧会場入口にお集まりください）

定員：各回 30名（当日先着順、予約不要）

料金：無料（要展覧会チケット）

ギャラリートーク ※日本語のみ

森美術館スタッフによるツアーです。展示室内をいっしょに回りながら作品を鑑賞します。

日時：隔週水曜日（2010年8月4日、18日、9月1日、15日、29日、10月13日、27日） 19:00 - 20:00

会場：森美術館展示室内（展覧会場入口にお集まりください）

定員：各回 15名（当日先着順、予約不要）

料金：無料（要展覧会チケット）

ワークショップ

吉岡徳仁と子どもたちのスケッチ大会 ※日本語のみ ※申込受付終了

日時：2010年8月19日 14:00 - 15:30

講師：吉岡徳仁

対象：小学校低学年

会場：森美術館展示室内

料金：材料費 500円（要展覧会チケット）

ファミリープログラム

おやこでアート ※申込受付終了

ベビーカーに乗っている赤ちゃんから、小さなお子様まで、おやこでアートを楽しむツアーです。お子様の成長段階に合わせて希望するツアーをどちらかお選びいただけます。

対象：未就学児（0～6歳）とその保護者

定員：各回 10組（要予約）

料金：無料（要展覧会チケット）

■ベビーカーツアー

小さなお子様を連れた保護者の方を対象としたツアーです。ベビーカーで来館されても安心して楽しみいただけます。

日時：2010年10月2日（土）、11月2日（火） 各回 11:00 - 12:00

※プログラム実施日以外もベビーカーでご来館いただけます。

■おやこでおしゃべりツアー

おしゃべりを始めたお子様と、作品を見てお話ししながら展示室を回るツアーです。お子様の視点に立って、おやこで一緒にお楽しみいただけます。（3歳以上におすすめです。）

日時：2010年10月2日（土）、11月2日（火） 各回 15:00 - 16:00

こどもツアー

展覧会のことをもっと知りたい、楽しみたいという小学生のためのツアーです。

日時：2010年8月20日（土） 11:00 - 12:00

対象：小学生

定員：20名（要予約）

料金：無料（要展覧会チケット）

※希望する保護者を対象としたツアーも実施します。

シニア向けツアー

シニアの方を対象としたツアーです。2～3人に一人のスタッフが付き、参加者のペースに合わせて展覧会をご案内します。展覧会についてさらに知りたい方、これまで美術館になじみのなかった方にもお楽しみいただけます。

日時：2010年9月17日（金） 10:30 - 12:00

対象：シニア世代の方（60歳以上）

同伴者がいる場合、同伴者の年齢は問いません。

定員：10名（要予約）

料金：無料（要展覧会チケット）

アクセスプログラム

手話ツアー

手話と言葉で展覧会を楽しむツアーです。手話をお使いにならない方も気軽にご参加ください。

日時：2010年10月8日（金） 19:00 - 20:00

対象：一般

定員：10名（要予約）

料金：無料（要展覧会チケット）

耳と手でみるアート

視覚に障害がある方を対象とした、スタッフとの対話を通して作品を楽しむツアーです。

日時：2010年10月23日（土） 11:00 - 12:30

対象：視覚に障害がある方

定員：8名（要予約）

料金：無料（要展覧会チケット）

学校プログラム

先生のためのツアー

美術館のご案内とともに、展覧会を授業で活用する方法について考えます。

日時：2010年8月26日（木） 18:30 - 20:00

対象：保育園、幼稚園、小・中・高等学校、大学、専門学校の先生

定員：50名（要予約）

料金：無料

とびだす学校ツアー

学校の授業の一環として展覧会をご覧いただくツアーです。希望日の3週間前までにお問い合わせください。事前に先生とご相談のうえ、日程や内容を決定します。

一人当たり入館料：保育園、幼稚園、小・中学校 無料

高等学校 500円、大学専門学校 1,000円

引率者は無料。詳しくはお問い合わせください。

お申し込みについて

「キュレーターによるギャラリートーク」「ギャラリートーク」以外のプログラムは全て事前予約が必要となります。「ワークショップ」「こどもツアー」は抽選、それ以外は先着順に受け付けます。森美術館のウェブサイトでお申し込みください。

なお、「手話ツアー」はファックス（03-6406-9351）、「耳と手でみるアート」「とびだす学校ツアー」は電話（03-6406-6101）でもお申し込みいただけます。

お問い合わせ

森美術館 学芸部パブリックプログラム（月～金 11:00-17:00）

電話：03-6406-6101（直通）FAX：03-6406-9351

Eメール：ppevent-mam@mori.co.jp

PRESS RELEASE プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：渡邊、瀧、品川、岡崎 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum
Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

「ネイチャー・ブックラウンジ」開設

日本の自然観を再考する「ネイチャー・センス展」では、展覧会の鑑賞体験を保ったまま、さらにその考察を深めていただくため、会員制ライブラリーを運営するアカデミーヒルズとのコラボレーションによる「ネイチャー・ブックラウンジ」を展示室内に設けます。

「ネイチャー・ブックラウンジ」には、日本の神話や宇宙観と繋がる森羅万象の自然観、縄文文化、万葉集や源氏物語に見る四季や自然の情景、日本庭園の変遷、あるいは日本人の身体観や知覚と認知についての問題、そして日本の近現代美術にみる身体表現や「もの派」などに関する書籍、ご家族で楽しんでいただける自然の風景の写真集など、約600冊（予定）を取り揃えます。

また、「ネイチャー・ブックラウンジ」の空間デザインは、俳優の伊勢谷友介主宰で、アーティストや建築家たちが廃材を利用した家具などで環境の再生を目指すクリエイティブ集団、REBIRTH PROJECT（リバースプロジェクト）が手掛けています。

「ネイチャー・ブックラウンジ」は、展覧会会期中、森美術館への入場券をお持ちの方には無料でご利用いただけるほか、日本の自然観を考えるさまざまなレクチャーシリーズの会場としても使用します。

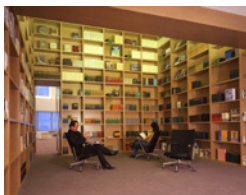


撮影：渡邊 修

期間：2010年7月24日（土） - 11月7日（日） **会場：**森美術館 ギャラリー1 **協力：**アカデミーヒルズ

書籍監修：澁川雅俊（アカデミーヒルズ六本木ライブラリー・フェロー）、高橋潤二郎（アカデミーヒルズ顧問 / 慶應義塾大学名誉教授）

空間デザイン：REBIRTH PROJECT（リバースプロジェクト）



アカデミーヒルズ

組織や会社を離れて活動する「自律的に自立する個人」の支援をコンセプトに、六本木ヒルズ森タワー49階で会員制ライブラリーやビジネスパーソンを対象としたスクールを運営。月に9450円で朝7時から24時まで利用できる六本木ライブラリーは、現在3200名の会員がおり、無線LANが使えるワークスペースや眺望が魅力のライブラリーカフェが好評を得ています。17000冊の蔵書はビジネス書の新刊本を中心に、ビジネスパーソンが必要とする知識や教養と出会うきっかけを作る「旬」の書籍を選書し、配架します。人が集まり、知性を磨き、交流し、つながることで、常に新たな価値が創造される、まさに「知の拠点」です。

Website: www.academyhills.com/



REBIRTH PROJECT（リバースプロジェクト）

「人類が地球に生き残る為のプロジェクト」を理念に、2009年5月設立。俳優、伊勢谷友介が代表を務める。衣食住における、廃材や再生資源の有効活用、新たな価値の創出を目的とした製品、企画のプロデュースを行い、その利益を環境保全や教育へ還元する、新しい循環型社会形成を目指す。

2009年、フランス大使館旧庁舎で開催された「No Man's Land（ノー・マンズ・ランド）」展に参加。

2010年5月、デニムブランドLEEとのコラボレーション企画となるデニム再生プロジェクト「LEEBIRTH PROJECT」を開始。 Website: www.rebirth-project.jp/

関連情報

■ 展覧会カタログ

本展の展示風景が入ります。8月下旬発売予定。

B5変形 / 208頁（予定） / 日英バイリンガル / 2,800円（本体価格、予定） / 企画・発行：森美術館 / 編集・制作：株式会社平凡社

■ インクジェット版画 エディション・サイン入り限定販売

全3種（絵柄：吉岡徳仁、篠田太郎、栗林 隆の新作ドローイング） 価格未定

■ ポストカード

全5種（絵柄：森美術館でのインスタレーションビュー） 予定、価格未定

販売場所：森アーツセンターミュージアムショップ 53F 03-6406-6270

PRESS RELEASE プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：渡邊、瀧、品川、岡崎 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum
Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー